

戦争法案許すなと、上越でもレッドアクション



赤シャツ姿の女性の訴えは迫力十分

「戦争立法NO」「許すな戦争する国づくり！」。7日、上越市、妙高市で女性市民グループが戦争する国づくり法案（安全保障関連法案）等への反対を街頭から呼びかけました。

「レッドアクション」というのは1970年代にアイスランドの女性たちが地位向上を求め、赤いストッキングをはいた運動をモデルにしており、平和への情熱を示す赤で戦争反対などを訴える行動をいいます。

この日は赤いシャツを着た新婦人など女性グループのメンバー、約20人が、上越市のかに池公園前、妙高市美守のスーパー近くの街頭から「戦争法案許すな」などと声をあげました。

赤いシャツを着た人たちが、ずらーっと並び、訴える姿は迫力があり、近くを通る車などに大きくアピールしました。上越地方でのレッドアクションは今回が初めて、

参加者は、「国会での法案審議がどうなるか心配だ。絶対成立させないためにもまた行動したい」とのべていました。

NPT再検討会議や原水禁大会参加報告も：原水協総会

原水爆禁止上越市協議会総会が6日、市内で開催されました。

今年の総会ではやはり、戦争法案のことが大きな関心事の一つとなりました。本間勝会長は、「安倍政権のもと、国民の生活はあらゆる分野で厳しくなっている。特に戦争法案については絶対許さず廃案にしていく必要がある。この運動、頑張っていくたい」と決意を表明しました。総会では、昨年の原水爆禁止世界大会に参加した佐藤恵美さんと先般のNPT再検討



写真は昨年夏の原水禁世界大会の参加報告をする佐藤さん



【ツルアリドオシ】アカネ科の多年草。漢字で「蔓蟻通し」と書きます。秋には赤い実をつけます。秋から冬にかけて、赤い実と緑の葉が目立ちます。「千両」「万両」と比べ、「一両」と呼ぶ人もいます。吉川区にて10日撮影。

討論会に合わせたニューヨーク国際行動に参加した山井広子さんがそれぞれスライドを使って報告を行いました。

佐藤さんは二人の子どもさんと共に参加した経験を語り、若者たちに核と平和の問題について関心を持ってもらうことの重要性を強調していました。山井さんのニューヨークでも署名活動を行ったことなどを語りました。山井さんの、「確実に世界は変わってきている」という言葉が印象に残りました。ふたりの報告はわかりやすく、興味深いものでした。

ガス水談合解明裁判の傍聴を

上越市ガス水道局発注の本支管工事入札における談合による損失を取り戻し、談合解明を目指す裁判がいよいよ始まります。

第1回公判は、6月25日(木)午前10時から新潟地裁で行われます。当日は鷺澤和省原告団副団長が意見陳述を行います。公正な裁判が行われるよう、多くの市民のみなさんに傍聴していただきたいと思えます。ご協力よろしくお願ひします。

当日は、次のような車の運行スケジュールで、地裁に出かけます。参加を希望される方は橋爪まで連絡お願いします。

- 7時30分 高田図書館前出発
 - 7時50分 リージョンプラザ前出発
 - 8時20分 柿崎交番前出発
- ※参加費は約2000円です。

はしづめ法一の活動レポート

No.1711 2015.6.14

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三五九回 母のショート

母も短期間の入所生活介護、ショートシテイに行き始めました。五月上旬に「お試しショート」に行っているのです。今度が二度目です。いずれも一泊二日でしたが、家に戻ってから、母が楽しそうにいろいろなことを話してくれるので、ホッとしています。六年前に他界した父の場合は、泊まりがけとなるショートシテイに行くようにいかにして仕向けるかだけでも難儀しましたので、その点、母の場合は気が楽でした。それでも何かなければいいかと心配するのはこの家族でも同じだと思います。

母が施設から帰ってきた日、仕事を終わらせて家に戻った私はすぐ、母に「どうだったね、ショート」と尋ねました。すると、ビデオでも回しているように、鮮明に、しかも細かく施設での生活について語ってくれたのでびっくりしました。

まずは食事の時の話です。どうやら、座る席は決められていて、椅子にも名前がちゃんとテーブルの上には「橋爪エツ様」と書いたものが置いてあり、椅子にも名前がちゃんとついていてと言っていました。続いて、ごつつおの話です。

「ごつつおか、あつた、あつた。白いササギが五つ出ていたな。のつぺもあつた。のつぺの中にはギンナン二つとニンジンに、タケノコに、それに竹輪も入っていた。あつ、そうだ、貝みたいなものも入っていて、うんめかった」

母が食べ物や料理に強い関心を持っていることは前から知っていたのですが、あまりにも具体的なので、今度、スタッフの方に実際はどうであったかを訊いてみたくなりました。

施設では昼間、体操やゲームなどを楽しんだようです。「昼間、体操もした。ゴムのくにやくにやするが、足首んとこしぼつて、伸ばしたり、そんがんがした。それから、袋のなかに六つ、ものが入っていて、手、突っ込んでそれが何か、ひとつずつあててくれという事もした。そうだな、ボール、シャモジ、マジック、パンダか犬のぬいぐるみ、ハサミ、山形のおしんさんがあれした、からからしたもん、そうそうコケシも入っていた」

ゴムの「くにやくにや」というのは伸び縮みするバンドのことでしょう。「そんがんがした」というのは、バンドを伸ばしたり、元に戻したりすることなのだと思います。お世話になった施設で出会った人たちのことも語ってくれました。こういう施設では、知っている人がいるのが何よりもうれしかったのでしようね。

「泊まったとき、小苗代に親戚がある人がいなかった。おまんのこと知ってるって言ってなつたよ。代石から泉に嫁に行った人もいなかったし、〇〇タクの人もいなかった。土尻から潟町へ行った人もいなかった。この人はよく話をしてくんなつた。ジェスチャーするばかりやがいて、この人の手に当たらんようにしてたがど」

母が泊まった部屋は個室で、一番奥にあったそうです。天井張り板、まわりの壁が白くてきれいな部屋だったと言っていました。一部屋ごとにテレビが入っているのには驚いたようです。「テレビ、銭（ゼン）出したがすけ観てもいいがろでも観なかつた」と言っていました。

隣の部屋でも気にして遠慮したのでしようか。母が持っていたバックには施設からの連絡事項が書かれた紙が入っていました。母がやったゲームは、「袋の中身はなんでしょうゲーム」だったのですね。食事欄を見て、思わず微笑んでしまいました。主食、副食のところはどちらも「全量」にマル印がついていたからです。母のいう通り、うんめかったのでしよう。

年金者組合上越支部が『明日へ』を出版

いいタイミングで出版されたものです。全日本年金者組合上越支部の幹部の方から同支部がこのほどまとめた『明日へ』というタイトルの小冊子をもらいました。副題は「戦後

70年の組合員の歴史」となっていますが、中身はほとんどが戦争体験文です。

小冊子は、同支部が「上越支部だより」に長く連載を続けてきた組合員の体験をまとめたものです。戦後60年以上も経って初めて明らかにした体験談もあれば親から聞いた戦争体験を文章化したものもあります。須藤友三郎さん、平塚長吉さん、杉田常治さん、河野進一さんなど既に亡くなっている人の文章も載っていて、興味深く読ませ



ていただきました。

この小冊子は全部で122ページ、非売品です。発行部数が限定されているので、読んだら回し読みするかありませんね。お読みになりたい方は橋爪までお知らせください。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月3日(水)	6月10日(水)
上越南消防署	0.043	0.050
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.053	0.043
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.057	0.053
東頸消防署	0.056	0.050
高士分遣所	0.047	0.053
名立分遣所	0.060	0.056



佐藤やまねさんの絵と出会い、感激

原水爆禁止上越市協議会の総会で、特別報告した佐藤恵美さんは、一緒に広島へ出かけた娘さんが描いた絵のことも紹介しました。娘さんはやまねさん、最近では切り絵でがんばっている女性です。切り絵だけでなく、他の絵もすばらしい。